

## 事例番号 24

Keywords: 障害に基づく困難の改善

### (1) タイトル

中途失明者にスクリーンリーダを使った PC 操作環境の構築

### (2) 事例の対象となる児童生徒

本事例の対象は、高等部に在籍する全盲生徒である。高校卒業後、社会に出ていたが、失明を機にあん摩・マッサージ・指圧師の免許取得を目指して本校に入学した。本校入学まで PC を使った経験がなく、学業から長く遠ざかっていたこともあって、学校生活に強い不安を感じている。中途失明者でしばしば見られるように、紙に印刷された普通文字だけでなく、点字も実用的に使用できない状態である。教科学習においても、QOL の向上においても、情報リテラシーの獲得が急務である。

### (3) 使用する機器（支援機器）の名称と特長

#### ① 支援機器の名称

WindowsPC

「PC-Talker」

「MyNews」

「MyDic」

「MyMail II」

#### ② 特長

使用するソフトは、高知システム開発の製品である。これらは、中途失明者が使いやすいように、「上下カーソルキーで選択、エンターで決定、ESC キーで戻る」など、ソフト間で統一されたシンプルなユーザインターフェースを採用している。

各ソフトの主な機能は、次のとおりである。

「PC-Talker」:スクリーンリーダ、画面に表示される文字やキー操作の結果を合成音声で読み上げる。

「MyNews」:Web 上で、新聞記事を読む。

「MyDic」:Web 上で、国語辞典、英語辞典、ウィキペディアなど、各種辞書を検索する。

「MyMail II」:電子メールの読み書きをする。

### (4) 使用した機器を選定した理由

PC-Talker は Windows の各エディションに対応した製品があり、経験的に安定して動作する印象がある。さらに、「MyNews」「MyDic」をはじめ、様々な視覚障害者向けアプリケーションが用意されており、使い方も統一されて、シンプルなので、中途失明者が習得しやすい。

### (5) 選定のプロセス

上を参照

### (6) 個別の指導計画と個別の教育支援計画

- ・個別の指導計画は、教科「情報」の「指導の工夫と配慮事項」に、心身機能・身体構造の特性に合わせた PC 操作環境の構築として記載する。また、全教科に関係する「指導目標と配慮事項」の項目に、学習の状況を記載する。

- ・個別の教育支援計画は、「学校での生活」の「必要な支援内容」の項目に、関連する学習状況を記載する。
- ・個々の児童生徒への支援内容をデータベースに掲載して、関係教員がいつでも確認できるようにする。

#### (7) 指導の内容

コンピュータの基礎

基本的操作(電源の投入からシャットダウンまで)

フルキー入力によるキータイピング

「MyDic」の活用

「MyNews」の活用

「MyMail II」の活用

#### (8) 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

- ・スクリーンリーダの音声を聞きながらコンピュータを操作することがある程度可能になった。
- ・教師から受け取った教材データをメモ帳で読んだり、解答を書き加えて保存したりできるようになった。
- ・「MyNews」を使って新聞記事を読めるようになった。
- ・「MyDic」を使って辞書検索ができるようになった。
- ・「MyMail II」を使って基本的な電子メールの送受信ができるようになった。

#### (9) まとめと今後の課題

普通文字も点字も実用的な使用が難しい中途失明の生徒に対して、「PC-Talker」、「MyNews」、「MyDic」、「MyMail II」でPC操作環境を構築して指導したところ、PCの基本操作が可能になり、テキストデータによる教材の読み書き、新聞記事の閲覧、辞書検索、電子メールの送受信ができるようになった。

今後は、操作速度、正確性、活用力を高め、学習や社会参加に役立つよう、情報リテラシーの確立を目指して指導したい。

#### (10) 文献(引用文献・参考文献)

高知システム開発 <http://www.aok-net.com/>

※ 本事例(特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例)は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブックー49例の活用事例を中心に学ぶ導入、個別の指導計画、そして評価の方法ー」(2012/3)に記載された内容である。